



銀閣寺そばにあるNUNUKA LIFE。砂利を敷いた展示が素敵。



日曜は休みと知らず訪れた京都工芸繊維大学の正門前。



二条城そばの市立芸大の画廊で明治時代の石版を見物。



嵯峨嵐山文華館にあるフィギュア付き百人一首が意外に楽しい。



蕪村による芭蕉の肖像画。芭蕉の旅の句が添えられている。



紅葉の名所として知られる鹿王院の石畳。

暮らす旅 京都 師ではなくとも走る京都

文・写真／松岡伸吾(暮らす旅舎)

8カ月ぶりの炬は滅茶苦茶。次こそ自主練と毎回思うが、今回は本気(と言っておく)。翌朝は観光客の戻りを確かめたくて嵐電に乗る。紅葉情報を確認し、まずは唯一見頃だった鹿王院。義満ゆかりの寺で錦秋を堪能した後、渡月橋をわたり錆びた嵐山を眺める。

さらに宝厳院、弘源寺へ向かうが、途中、嵯峨嵐山文華館へ。芭蕉や蕪村の自筆掛け軸や、フィギュア付き百人一首を鑑賞。紅葉には1週間遅く、修学旅行と海外の観光客の爆増を実感。ランチはどこも長蛇の列で諦め、大宮駅に戻る。二条城へ行く途中、猪熊町に居酒屋の昼だけ間借りしているラーメン店を発見。ついチャーシューを追加したら、あとはひた

すら歩くしかない後悔の満腹。京都は美術系大学が多く、その一つ京都市立芸大のギャラリーまで歩く。石版印刷の展示を見たあと、地下鉄バスを乗り継いで、銀閣寺へ。

実は母が2年余の入院を経て10月に永眠し、香典返しを探しにNUNUKA LIFEへ向かった。

以前新町通りにあったYDSギャラリーが場所と名を変え、哲学の道近くにオープンした工芸ギャラリーだ。漆器を選ぶつもりだったが、ガラス器に決めた。全国に作り手を訪ねる店主の審美眼は、そのユニークな展示にも現れている。夜はかねてから行きたかった日本酒バー。女主人こだわりの酒と肴に癒された。

翌朝、フランス帰りの浅井忠が教鞭をとった松ヶ崎の京都工芸繊維大学へ向かう。浅井が留学先のパリから持ち帰った20世紀初頭のポスターも展示されていたが、あいにく日曜日は休館だった。広い敷地を囲む塀沿いを歩き、一乗寺の恵文社を久しぶりに訪ねた。

一乗寺といえばラーメン通りが有名だが、天ぶらそばを食べ、三条烏丸の新風館へ。アップリンクで「あのこと」を見て、志津屋のピフカツサンドを買いのぞみに乗る。と、バタバタ駆けまわった師走の京都だった。